


安全データシート

1. 化学品及び会社情報	
化学品の名称	Hexanoic Acid <Caproic Acid>
コンポーネント名	
商品コード	SRL社 商品コード:D-28
供給者の会社名称	フナコシ株式会社
住所	東京都文京区本郷2-9-7
担当部門	コンプライアンス管理部
電話番号	03-5684-5107
FAX番号	03-5802-5218
推奨用途及び使用上の制限	研究用試薬
整理番号	DEL1572V01 (2022/2/14)
2. 危険有害性の要約(以下、SDSは単一物質としての評価に基づき作成)	
化学品のGHS分類	
健康有害性	急性毒性(経皮) 区分3 急性毒性(吸入:粉じん、ミスト) 区分4 皮膚腐食性/刺激性 区分1 眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性 区分1
環境有害性	水生環境有害性 短期(急性) 区分3 水生環境有害性 長期(慢性) 区分3 上記で記載がない危険有害性は、区分に該当しないか分類できない。
GHSラベル要素 絵表示	
注意喚起語 危険有害性情報	警告 H311 皮膚に接触すると有毒 H314 重篤な皮膚の薬傷及び眼の損傷 H332 吸入すると有害 H412 長期継続的影響によって水生生物に有害
注意書き 安全対策	粉じん、煙、ガス、ミスト、蒸気、スプレーを吸入しないこと。(P260) 取扱い後は眼や手をよく洗うこと。(P264) 屋外又は換気の良い場所でだけ使用すること。(P271) 環境への放出を避けること。(P273) 保護手袋、保護衣、保護眼鏡、保護面を着用すること。(P280)
応急措置	飲み込んだ場合、口をすすぐこと。無理に吐かせないこと。 (P301+P330+P331) 皮膚に付着した場合、直ちに医師に連絡すること。(P302+P310) 皮膚に付着した場合、多量の水で洗うこと。(P302+P352) 皮膚や髪に付着した場合、直ちに汚染された衣類を全て脱ぐこと。皮膚を水又はシャワーで洗うこと。(P303+P361+P353) 吸入した場合、気分が悪いときは医師に連絡すること。(P304+P312) 吸入した場合、空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。(P304+P340) 眼に入った場合、直ちに医師に連絡すること。(P305+P310) 眼に入った場合、水で数分間注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。 (P305+P351+P338) 汚染された衣類を直ちに全て脱ぎ、再使用する場合は洗濯をすること。 (P361+P364)
保管 廃棄	施錠して保管すること。(P405) 内容物や容器を、国、都道府県又は市町村の規則に従って廃棄すること。(P501)

他の危険有害性
重要な徴候及び想定される非常
事態の概要

3. 組成及び成分情報

化学物質・混合物の区別	単一製品
化学名又は一般名	ヘキサン酸
CAS番号	142-62-1
濃度又は濃度範囲	100%
化学式	C6H12O2
化審法官報公示番号	(2)-608
安衛法官報公示番号	
分類に寄与する不純物及び安定化添加物	データなし

以下、該当する単一成分のSDSを記載する。

4. 応急措置

吸入した場合	空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。 気分が悪い時は、医師に連絡すること。
皮膚に付着した場合	直ちに医師に連絡すること。 直ちに汚染された衣類をすべて脱ぎ、皮膚を多量の流水又はシャワー、石鹸で洗うこと。 皮膚刺激又は発疹が生じた場合は、医師の診断、手当てを受けること。 汚染された衣類を再使用する場合は洗濯すること。
眼に入った場合	直ちに医師に連絡すること。 水で数分間注意深く洗うこと。次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。 眼の刺激が続く場合、医師の診断、手当てを受けること。
飲み込んだ場合	口をすすぐこと。 無理に吐かせないこと。 気分が悪い時は、医師に連絡すること。
急性症状及び遅発性症状の最も重要な徴候症状	吸入：咳、咽頭痛。皮膚：発赤、痛み。眼：発赤、痛み、かすみ眼。
応急措置をする者の保護	データなし
医師に対する特別な注意事項	データなし

5. 火災時の措置

適切な消火剤	泡消火剤、粉末消火剤、炭酸ガス、乾燥砂類。
使ってはならない消火剤	棒状注水、水噴霧。
特有の危険有害性	熱、火花及び火炎で発火するおそれがある。 激しく加熱すると燃焼する。 火災によって刺激性及び毒性のガスを発生するおそれがある。
特有の消火方法	危険でなければ火災区域から容器を移動する。 安全に対処できるならば着火源を除去すること。 容器が熱に晒されているときは、移動させない。
消火を行う者の保護	適切な空気呼吸器、化学用保護衣を着用する。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置	直ちに、全ての方向に適切な距離を漏洩区域として隔離する。 関係者以外は近づけない。 作業者は適切な保護具(「8. ばく露防止及び保護措置」の項を参照)を着用し、眼、皮膚への接触や吸入を避ける。 低地から離れ、風上に留まる。
環境に対する注意事項	環境への放出を避けること。
封じ込め及び浄化の方法及び機材	漏れた液やこぼれた液を、密閉式の容器に回収し、後で廃棄処理する。 残留分を多量の水で洗い流す。

危険でなければ漏れを止める。
二次災害の防止策 排水溝、下水溝、地下室あるいは閉鎖場所への流入を防ぐ。

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い	
技術的対策	「8. ばく露防止及び保護措置」に記載の設備対策を行い、保護具を着用する。
安全取扱注意事項	煙、ミスト、蒸気、スプレーを吸入しないこと。 屋外又は換気の良い場所でのみ使用すること。 眼や皮膚との接触、飲み込まないこと。
接触回避 衛生対策	「10. 安定性及び反応性」を参照。 取扱後は眼と手をよく洗うこと。
保管	
安全な保管条件	保管場所には危険物を貯蔵し、又は取扱うために必要な採光、照明及び換気の設備を設ける。 保管場所は壁、柱、床を耐火構造とし、かつ、屋根とはりを不燃材料で作成し、天井を設けないこと。 保管場所の床は、危険物や水が浸透しない構造とすると共に、適切な傾斜をつけ、かつ、適切なためますを設けること。 熱、火花、裸火のような着火源から離して保管すること。禁煙。 強塩基、酸化剤から離して保管すること。 施錠して保管すること。
安全な容器包装材料	消防法又は国連輸送法規で規定されている容器を使用する。

8. ばく露防止及び保護措置

管理濃度	未設定
許容濃度(産衛学会)	200ppm、1100mg/m ³
許容濃度(ACGIH)	TWA 350ppm, TLV-STEL 450ppm
設備対策	この物質を貯蔵ないし取扱う作業場には洗眼器と安全シャワーを設置すること。 作業場には全体換気装置、局所排気装置を設置すること。
保護具	
呼吸用保護具	適切な呼吸器保護具を着用すること。
手の保護具	適切な保護手袋を着用すること。
眼、顔面の保護具	適切な保護眼鏡(普通眼鏡型、側板付き普通眼鏡型、ゴーグル型)を着用すること。
皮膚及び身体の保護具	適切な保護衣、保護面を着用すること。必要に応じて個人用の呼吸保護具を着用すること。

9. 物理的及び化学的性質

物理状態	液体
色	無色
臭い	特徴的なヤギのような臭気
融点/凝固点	-3.4°C、-1.5~2°C
沸点又は初留点及び沸騰範囲	205°C、125°C(40mmHg)、111.8°C(20mmHg)、99.5°C(10mmHg)、89.5°C(5mmHg)、71.4°C(1mmHg)
可燃性	データなし
爆発下限界及び上限界/可燃限界	1.3~9.3vol%(空气中)
引火点	102°C(開放式)
自然発火点	380°C
分解温度	データなし
pH	データなし
動粘性率	データなし
溶解度	水:9.6g/L(20°C)
n-オクタノール/水分配係数(log値)	log Pow = 1.88
蒸気圧	0.18mmHg(20°C)
密度及び/又は相対密度	0.9265(20°C/4°C)、0.945(0°C/0°C)、0.9172(40°C/40°C)

相対ガス密度	4.01(空気 = 1)
粒子特性	データなし

10. 安定性及び反応性

反応性	強塩基、酸化剤と激しく反応する。
化学的安定性	データなし
危険有害反応可能性	熱や火炎で燃焼し、分解温度まで加熱すると、酸性の煙やヒュームを発生する。
避けるべき条件	熱、火炎
混触危険物質	強塩基、酸化剤
使用、保管、加熱の結果生じる危険有害な分解生成物	酸性の煙やヒューム
その他	弱酸である。

11. 有害性情報

急性毒性	
経口	ラットのLD50 = 6440、3000mg/kg bw (JECFANo.40(1998))、5970mg/kg bw (PATTY5th(2001))であるとの報告に基づき、区分外とした。
経皮	ウサギのLD50 = 630mg/kg bw (PATTY5th(2001))であるとの報告に基づき、区分3とした。
吸入(ミスト)	マウスの(2時間)LC50 = 4.1mg/L(4時間換算値:2.05mg/L) (BUA Report 241(2002))であり、区分4とした。なお、LC50値は飽和蒸気圧濃度(0.27208mg/L)よりも高く、ミストと判断し分類した。
皮膚腐食性／刺激性	ウサギの試験(OECDTG404:GLP準拠)において壊死(necrosis)とその後の瘢痕形成(scarformation)がみられ、適用後21日間瘢痕が残留している(BUA Report 241(2002))ことから、区分1とした。
眼に対する重篤な損傷性／眼刺激性	ウサギの試験において角膜に重度の熱傷(severe burn)がみられ(PATTY5th(2001))、かつ、皮膚に対し腐食性として区分されていることから、区分1とした。
呼吸器感受性	データなし
皮膚感受性	26人のボランティアによるMaximization Testにおいて、陽性反応はみられなかった(BUA Report 241(2002))と報告されているが、この他に試験データは無く分類できないとした。
生殖細胞変異原性	In vivoにおける試験データは無いため、分類できないとした。なお、in vitroにおけるエームス試験(JECFANo.40(1998)、NTPDB Acc.8(2009)、PATTY5th(2001))は全て陰性、マウスリンフォーマ試験(JECFANo.40(1998))は代謝活性化なしでは陰性(代謝活性化ありでは擬陽性)である。
発がん性	データなし
生殖毒性	データなし
特定標的臓器毒性(単回ばく露)	データなし。なお、ICSC(J)(1998)において、短期ばく露の影響として気道を刺激するとの記載がある。
特定標的臓器毒性(反復ばく露)	ラットの2つの3週間混餌投与試験(用量:約1000、2000、4000mg/kg(90日換算値:233、467、933mg/kg))において、一方は肝臓のペルオキシソーム及びペルオキシソーム酵素に影響はみられない(JECFANo.40(1998))との記載、他方は低用量では血清中のトリグリセリドレベルが減少したがコレステロールレベルに影響は無く、中・高用量ではトリグリセリド・コレステロール共に影響はみられない(BUA Report 241(2002))との記載のみであり、その他臓器への影響に関する記載は無い。ラットの150日間混餌投与試験(用量:約5000mg/kg)においても、腺胃及び前胃に変化はみられない(JECFANo.40(1998))との記載のみである。以上の結果から経口では本物質投与による影響はないと思われ区分外に相当するが、他の経路での情報が無いため分類できないとした。
誤えん有害性	データなし。なお、ICSC(J)(1998)においてこの液体を飲み込むと、肺に吸い込んで化学性肺炎を起こすことがあるとの記載がある。

12. 環境影響情報

水生環境有害性 短期(急性)	魚類(ファットヘッドミノー)での96時間LC50 = 88mg/L(AQUIRE(2010)、HSDB(2006)、BUA241(2002))であることから、区分3とした。
----------------	--

水生環境有害性 長期(慢性)	急性毒性区分3であり、急速分解性に関する信頼性があるデータがないことから、区分3とした。
生態毒性	データなし
残留性・分解性	データなし
生体蓄積性	データなし
土壤中の移動性	データなし
オゾン層への有害性	データなし

13. 廃棄上の注意

残余廃棄物	本品を廃棄する際には、国、都道府県並びにその地方の法規、条例に従うこと。廃棄処理中に危険が及ばないように十分注意すること。
汚染容器及び包装	関連法規制ならびに地方自治体の基準に従って適切な処分を行う。空容器を廃棄する場合は、内容物を完全に除去すること。

14. 輸送上の注意

国際規制	
海上規制情報	IMOの規定に従う
UN No.	2829
Proper Shipping Name	CAPROIC ACID
Class	8
Sub Risk	
Packing Group	III
Marine Pollutant	Not applicable
Transport in bulk according to MARPOL 73/78,Annex II, and the IBC code.	Not applicable
航空規制情報	
UN No.	2829
Proper Shipping Name	CAPROIC ACID
Class	8
Sub Risk	
Packing Group	III
国内規制	
陸上規制情報	非該当
海上規制情報	船舶安全法の規定に従う。
国連番号	2829
品名	カプロン酸
国連分類	8
副次危険	
容器等級	III
海洋汚染物質	非該当
MARPOL 73/78 附属書II 及び IBCコードによるばら積み輸送される液体物質	非該当
航空規制情報	航空法の規定に従う。
国連番号	2829
品名	カプロン酸
国連分類	8
副次危険	
等級	III
特別の安全対策	
緊急時応急措置指針番号	153

15. 適用法令

毒物及び劇物取締法	劇物(指定令第2条)【91の3 ヘキサン酸及びこれを含有する製剤】ヘキサン酸 含製剤。11%以下を含有するものを除く
消防法	第4類引火性液体、第三石油類非水溶性液体(法第2条第7項危険物別表第1)【5 第三石油類非水溶性液体】

1気圧において、20℃で液状であって、危険物令第1条の6で定める試験において引火性を示し、引火点が70℃以上200℃未満のもの（法別表第1備考15）。ただし可燃性液体量が40%以下のものを除く（危険物則第1条の3第6項）。

航空法	腐食性物質（施行規則第194条危険物告示別表第1）【【国連番号】2829 カブロン酸】
船舶安全法	腐食性物質（危規則第3条危険物告示別表第1）【【国連番号】2829 カブロン酸】

16. その他の情報

参考文献	<p>経済産業省 事業者向けGHS分類ガイダンス 日本ケミカルデータベース ezCRIC 職場のあんぜんサイト GHS対応モデルラベル・モデルSDS情報 国際化学物質安全性カード(ICSC)日本語版 化学物質総合情報提供システム(CHRIP)</p>
その他	<ul style="list-style-type: none"> ◆危険・有害性の評価は必ずしも十分でないので、取扱いには十分注意して下さい。 ◆本データシートは情報を提供するもので、記載内容を保証するものではありません。 ◆表記の試験研究用試薬以外に本データシートを適用しないで下さい。 ◆輸送中、保管中、廃棄後も含めて、内容物や容器が、製品知識を有しない者の手に触れぬよう、厳重に注意して下さい。